

【事業名称】

(公社) 日中友好協会都道府県協会実務者交流会議 (東、西の両会場で開催)

【開催日時・場所】

西会場 (大阪府池田市・不死王閣) : 2014年11月14日から15日まで

東会場 (宮城県仙台市・ホテル法華クラブ) : 2014年11月25日から26日まで

【事業内容】



(公社) 日中友好協会は11月14・15の両日、大阪府池田市の不死王閣で「西日本都道府県協会実務者交流会議」を開いた。西日本各地の実務担当者42人が参加し、活動状況や課題克服への取り組みなどについて意見交換した。一方、「東日本会議」は11月25・26日の両日に宮城県仙台市のホテル法華クラブで開き、29人が参加した。

池田会場の「西日本会議」には、東海、北陸、関西、中国・四国、九州の各地域にある19協会から実務担当者が参加した。協会役員では、村岡久平理事長、岡崎温(愛知)・大藪二郎(大阪)の両常務理事、小田眞弘(大阪)・揚原安麿(福井)の両理事が参加した。

会議に先立ち、開催地を代表して小田理事が、協会を代表して村岡理事長がそれぞれあいさつした。岡崎常務理事が座長を務め、会議を進行した。初日は参加者が近況や課題、新たに取り組んでいる事業などについて各自報告した。京都府日中は、府と連携して訪中することで費用の削減に努めていることを紹介し、大阪府日中は「遠くの親戚より近くの友人」を重視し、最近では近郊の中国人と交流を深めていることを報告した。会員拡大については、多くの協会がなかなか成果を上げられていないのが現状のようで、「入会のメリットの再構築が必要」「若者が振り向くような活動をしなければ」などの意見が出された。

2日目は、来年5月に大阪で開催する第14回日中友好交流会議についても話し合い、大阪府日中理事長も務める小田理事は「厳しい日中情勢の中で開催することになる。局面を打開できるようなインパクトのある交流会議にしたい」と話した。交流会議について参加者からは、「日中友好に対する協会のスタンスを明確に示した会議にすべき」「若い人も参加しやすいよう、世代別で分科会を行ってはどうか」「何か新鮮さがほしい」などの意見が出された。なお、会議では11月7日に亡くなった藤尾昭・池田市日

中名誉会長をしのび、全員で黙とうを捧げた。

初日夜には懇親会が開かれ、谷井昭雄・大阪府日中会長や劉毅仁・駐大阪中国総領事らが出席した。冒頭であいさつした谷井会長は、「日中関係が厳しい時期こそ、われわれにしかできない大事な活動を、地域に合わせてやらなければならない。頑張ろう」と述べ、参加者を鼓舞した。乾杯した後も、参加者たちは、酒を酌み交わしながら日中友好談義に花を咲かせた。参加者たちは、他の協会の現状報告を聞くことで、自身の協会に足りないことや活動のヒントを得た。初対面で名刺を交換する姿も見られた。